

---

第五の理由は意外なところ  
にありました。戦時中、私は  
高田事件最後の生存者上田良  
平翁の話を書くために訪問し  
たことがあります。翁は話の  
あとで白ひげをなでながら、  
君らは信越線開通について  
室孝次郎や大井茂作らの活  
動ばかりいうが、鈴木昌司  
や八木原繁祉らの裏面工作  
がなかったら、あんなに早  
く鉄道は敷けなかったんだ  
よ。なんの理由もなく数十  
日も監獄へぶち込まれた自  
由党の諸君の鬱憤（うっぶ  
ん）を鈴木らは上京して、  
政府へこの始末をどうして  
くれる…とねじこみ、数日  
間滞在して、山県や伊藤・  
大隈に強硬に抗議し、最後  
は信越の間に問題となっ  
ている鉄道敷設を即座に実施  
し、地方開発を計ることで  
和解して来たんだよ。

と教えてくれました。これこそ  
信越線開設の歴史には、一  
片の記録もない、有難い実話  
であり、わたくしは、改めて  
伝承の尊とさを知りました。

鈴木昌司や八木原繁祉は、  
政治的には室孝次郎らと反対  
の立場にあったが、鉄道敷設  
に関しては郷土愛的な観念で  
よく協力し、自由党から信越  
鉄道会社に大株主を多数党員  
から推薦しました。

---